

2025 年の夏休みイベント
自由研究のおてっだい
～毎週たのしいワークショップ～

開始時間 ①10:00～ ②11:00～ 所要時間 所要 45分程度 整理券配布 9:35～ 定員 各回 20名
③13:00～ ④14:00～

整理券はなくなり次第配付を終了いたします。時間の選択はできませんのでご了承ください。
整理券は体験するご本人へのお渡しします。その他、整理券に関する最新情報はホームページをご確認ください。

※つきその場合
保護者は1組1名様まで
お願いいたします。

8/2 土 オーロラスライム
をつくろう 参加費 ¥100円

対象 小学生のみ

きらきら「オーロラスライム」
をつくって地震の揺れ方や液状
化について学ぼう。

8/9 土 てんぐのうちわ
をつくろう

対象 どの年齢でも

コンパクトになっ
てても便利のうちわ
をつくってみよう。

8/16 土 コインが消える
貯金箱をつくろう

対象 小学生以上

防災用のアルミシートの
特性を利用して、コイン
が消える貯金箱をつく
てみよう。

8/23 土 ふしぎなけむり
をつくろう

対象 小学生以上

参加費 ¥100円
災害時のほこりや火事
について学ぼう。

8/30 土 吸水ポリマーで
虫よけをつくろう

対象 小学生以上

夏にびつたりのさわ
やかな虫よけをつくろう。
災害時のトイレにつ
いても学べるよ。

毎週たのしい子ども向け工作 9:30～15:00 ※材料がなくなり次第終了いたします。



8/2 土 ビリビリ声になる
コップをつくろう

8/9 土 ようかい映写機
をつくろう

8/16 土 ふくらむおばけ
をつくろう

8/23 土 ようかいめんこ
をつくろう

8/30 土 おばけの
クルクル笛
をつくろう

8/30 土 おばけの
クルクル笛
をつくろう

8/30 土 おばけの
クルクル笛
をつくろう

8/30 土 おばけの
クルクル笛
をつくろう

8/30 土 おばけの
クルクル笛
をつくろう

8/30 土 おばけの
クルクル笛
をつくろう

お知らせ 9/9(火)～11/24(月・祝)

伊勢湾台風・東海豪雨 25 年企画展
地図は悪夢を知っていた
～濃尾平野水害地形分類図からわかること～

SNS
更新中

Facebook



X



Youtube



Instagram



QRコードで
フォローして
見よう

地下鉄名古屋線「港区役所駅」より徒歩3分・入場無料

名古屋市港防災センター

休館日 月曜日(祝日の場合はその直後の平日が休館)

第3水曜日・年末年始(12/29～1/3)

開館時間 9:30～16:30 ※体験は16:00まで

電話番号 052-651-1100

住所 名古屋市港区港明1丁目12-20



地下鉄

名古屋線「港区役所駅」下車
1番出口から徒歩3分

バス

「港区役所駅」下車、徒歩2分
※駐車場はございません。
公共交通機関にて来館ください。

百鬼騒乱

企画展

～災いと妖怪伝承～

2025. 5月20日(火)～8月31日(日)

会場：名古屋市港防災センター

日本は、地震、風水害、土砂災害や感染症など数多くの災害に見舞われてきました。その記憶や歴史は、各地の妖怪・災害伝承に残されています。本展示では、物語や災害教訓、科学や未来への技術、人々の祈りや願いなどを紹介します。これからも自然環境を知り、未知の災害の脅威を前に、心のすき間から生じる妖怪たちと共に歩いていきましょう。



制作：名古屋市港防災センター、兵庫県立人と自然の博物館
監修：名古屋市港防災センター 大場(提督)玲子、あいち妖怪保存会 島田尚幸、兵庫県立大学自然・環境科学研究所 高田知紀
特別協力：いづきのみや歴史体験館、京都先端科学大学、兵庫県立歴史博物館、湯本第一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)
協力：国土防災技術(株)、名古屋市防災危機管理局 (五十音順)
※本展示は、全国科学館連携協議会の巡回展示物制作(令和5年度)により制作

百鬼

「災いと妖怪伝承」

企画展



天の章

台風による暴風、落雷、吹雪や雪崩に関わる存在たちを紹介。この章では“自然を左右する力”をもつ存在と信仰、そして、山の禁忌や、落雷によりみられる現象の解釈などを通じ、人と自然の関係性を想像してみましょう。

火の章

火災に関わる存在として、天狗を紹介。この章では、火や風を自在に操る天狗の特殊能力を紹介するだけでなく、関東大震災で甚大な被害を与えた火災旋風についても、映像を交えて学んでみましょう。

病の章

人々に病をもたらし存在として、鬼を紹介。この章では、感染症とともに歩んできた人類の歴史のなかで、忍び寄る不可視な存在を、どのように捉え、対処してきたのか、人の営みを通じて考えてみましょう。

祈りのかたち、願いのかたち

いつの時代も人々の安寧を願う想いは変わりません。

人々が願い、祈る気持ちをどのように形にして表現してきたのでしょうか。

制作：名古屋市港防災センター、兵庫県立人と自然の博物館
監修：名古屋市港防災センター 大場（提髪）玲子、あいち妖怪保存会 島田尚幸、
兵庫県立大学自然・環境科学研究所 高田知紀
特別協力：京都先端科学大学 木場貴俊、兵庫県立歴史博物館 香川雅信、
いつきのみや歴史体験館 榎村寛之、湯本豪一記念日本妖怪博物館
（三次もののけミュージアム）吉川奈緒子
協力：国土防災技術（株）、名古屋市防災危機管理局



日本の災害の記憶や歴史は、各地に伝わる妖怪伝承にも数多く残されています。妖怪たちが伝える予兆<メッセージ>から、今後も起こりうる「災い」に備える術を学んでみませんか。

水の章

豪雨、洪水などの水害、地震による津波あるいは、日照りに関わる存在たちを紹介。私たちが生きていく上で、なくてはならない「水」。この章では祭礼や物語を紐解きながら、それぞれの土地の抱える水にまつわる災害リスクや教訓を読み解いてみましょう。

地の章

地震、土石流、噴火などに関わる存在たちを紹介。人々は災害の原因や、地形のでき方をどのように考え、捉えてきたのでしょうか。この章では先人による自然の見方から、最新技術を用いた地球の観測まで、様々な見方で世界を捉えてみましょう。

